

主イエスはガリラヤ地方を中心に宣教をされた後、一度だけ北の地方にいかれたことがあるのを先週私たちは学びましたが、本日の福音書に出て参りました、フィリポ・カイサリア地方におけるペテロのキリスト告白は極めて重要な記事であります。聖書を見てみますと、主イエスの正体について御自身が明確に示されたことは一度もありません。また、ご自身について他の人に説得されたこともありません。そのように主イエスの正体は謎に包まれているかのようです。

弟子達もまた主イエスのことをはっきりキリスト（救い主）だと理解してはいないようです。あるとき、主イエスと弟子達が船に乗って嵐にあったとき、主イエスが波をおしかりになると嵐は止んだということがありましたが、その時弟子達は主イエスを「この方はいったいどなただろう？」と話し合ったようです。主イエスのご自身のことを、弟子たちをはじめ全ての人に理解してもらいたいと願っていたいに違いありませんが、どうしてご自身ではそのようなことはなさらなかったのでしょうか。

それは、救い主というのは教えられるものではない、説得されたり押しつけられたりするものでもない、出会った人自身が自分で受けとめることだということです。主イエスに出会った人自身が主イエスを救い主と受けとめるかどうかが問われているのであって、主イエスの方から私がキリストだ、救い主だということではないのです。主なる神はいつも私達の目の前におられます。しかし主なる神は自分の方に目をむけさせようとか関心をひこうとはなさらないので、それはあくまでもその人自身の問題であって自由に委ねられているのです。救い主と受けとめようとも拒否しようともそれはその人自身の自由なのです。私達の信仰生活は、主なる神が自分に何をしてくれる、どんな役得があるかということではなく、絶えず主なる神から決断を求められ、歩んでいく過程であるのです。そして主は、私達の決断に応じて審きを行われるのです。

『「人々は、人の子のことを何者だと言っているか」とお尋ねになった。弟子たちは言った。『洗礼者ヨハネだ』と言う人も、『エリヤだ』と言う人もいます。ほかに、『エレミヤだ』とか、『預言者の一人だ』と言う人もいます。』イエスが言われた。「それでは、あなたがたはわたしを何者だと言うのか。」シモン・ペトロが、「あなたはメシア、生ける神の子です」と答えた。』

こうしてみますと、弟子達はまだ主イエスの存在を十分受けとめてはなかったようです。しかし主イエスとの出会いは確実に心の中に芽を出し、成長させられていたのです。ペテロの答えはそのしるしです。そしてこれが私達のもつべき信仰であり、信仰生活の姿であるのが示されております。

このペテロの答えを聞いた主イエスは喜ばれました。主イエスの存在を正しく受けとめていたこと、そして弟子達が主なる神によって正しい目を開かれていたからです。そして最後の部分に記されていたことは、私達の属する教会にとって大切な箇所であります。

まず、教会は主イエスがお建てになったのです。主イエスは教会を建てることは命じられていないとかいう人がいますが、教会とは所謂建物だけをさすのではなく、イエス様を救い主と告白する人の集まりだということです。教会は確かに主イエスの命令によって建てられているのです。教会はその信仰の上に、堅い岩のような信仰の上にたてられているのです。そしてその信仰は、2,000年間受け継がれてきたのです。

『わたしはあなたに天の国の鍵を授ける。あなたが地上でつなぐことは、天上でもつながれる。あなたが地上で解くことは、天上でも解かれる』

これは教会に主なる神からの権威が与えられているということです。天国の鍵が授けられているというのは、天国への主なる神の招きの業に教会は責任をもっている、人々を天国に導きなさいということなのです。教会の宣教の使命は実はここから出ているのです。

続いて罪の赦しについてふれられています。罪の赦しは本来審き主である主なる神しか出来ないことですが、人々に罪の赦しを伝えるため、人々が安心して主なる神の恵みを受けることが出来るため、罪の赦しの権威が教会に与えられているのです。私達には馴染みのうすい箇所ですが、それを具体的に現しているお祈りがあります。祈祷書の298頁にある個人懺悔の式がそれです。ルブリックによりますと、教会には共同の懺悔、これは本日の聖餐式でこれから行う懺悔をさしますが、これの他、司祭の奉仕の努めを通して、信徒が個人的に懺悔し、神の赦しにあずかる道が備えられている、個人懺悔を望む信徒は牧師またはほかの司祭のもとに行き、次の方法によって、これを行うことができる。となっており、具体的な方法が記されております。この礼拝も主イエスのこのときの教えが始まりであるのです。カトリック教会ではこの個人懺悔を積極的に進めております。聖公会では聖餐式などの共同懺悔が原則となっており個人懺悔は本人から特に希望があったときに行うことになっております。こうした務めは本来牧師の役割ですが、個人懺悔に関しては自分で信頼のおける、あるいは自分で希望する司祭のところで行うことが出来ます。

教会はこのように連なるすべての人々のために、主なる神の恵みを伝え、赦しを宣言する務めが与えられているのです。私達の心の中で救い主キリストの姿を刻み、主イエスがたてられて教会の中で与えられて使命を十分に果たす存在とされていきたいものであります。